

第9章 情報資源管理とアジェンダ設定

城山 英明

9-1 国際的政策過程におけるアジェンダ設定

(0) 規範・フレーミング(規範・課題の関連付けー流動的体系性)

- 国際組織の自律性の基盤としての規範 cf. 規範の前提としての情報
- 構築主義と言説アプローチー安定的規範とダイナミックな規範 cf. Krook, True
- フレーミングと規範の多様性・変容性ー例・子ども兵士: 児童労働問題か人道問題か、女性への暴力: 平等開発平和問題か人権問題か、選挙監視: 人権問題か主権侵害問題か

(1) フレーミングとネットワーク

- フレーミングはフォーラム・ショッピングと連動
- 例: 遺伝子組み換え技術ーOECDとCodex
- Norm diffusion perspective⇔transnational perspective (Zwingel 2012)
- 政策企業家の役割ー民間の役割の可能性と政府間組織も活用した正当化

(2) アジェンダ設定メカニズムの制度化

- OECD-GATTの事前交渉、G7等支援機能
- 世界経済フォーラム: Agenda Council→Future Council
- トランスナショナル唱道ネットワーク(TAN)ー例: 対人地雷全面禁止条約(←軍縮問題ではなく人道問題 cf. 核兵器)、紛争ダイヤモンド取引レジーム

(3) 残された課題としての実施 cf. 実効性・正当性問題ー第10章

9-2 国際行政における情報の役割

- 信頼醸成
- 政策決定支援←アジェンダ設定支援
- 政策実施支援

9-3 情報収集・利用の諸相

9-3-1 安全保障分野

- (1) 外交における伝統的活動
- (2) 衛星等による軍事情報収集
 - ABM(対弾道ミサイル)条約: 自国の検証技術手段(national technical means of verification) INF(中距離核ミサイル)条約: 現地査察
 - START(戦略兵器削減交渉): 条約より詳細な手段や手続き
- (3) 国連等による紛争に関する早期警報システム
- (4) 小火器、麻薬等の生産・移動に関する情報収集

9-3 情報収集・利用の諸相

9-3-2 経済社会分野

(1) 国際経済社会統計

- FAO等の専門機関、IMF、OECD、国連等による経済社会統計
 - cf. 現在でも援助行政においてもそもそもデータのないこと多いー構造調整の前提
 - 歴史的にもマクロ経済指標(GNP、GDP)は政府介入の前提
- NGOによる先行: 万国統計会議、国際統計協会
- 政府間化: 万国農事協会(1905-)、ILO(1919-)、国際連盟
 - 1928年:「経済統計に関する国際条約」調印ー連盟は統計専門家委員会設置
 - 国際連合: 経済社会理事会の下に統計委員会

9-3 情報収集・利用の諸相

9-3-2 経済社会分野

(2) 新しい課題に関する指標化

1) 人権指標化

- チャールズ・ヒューマナ『世界人権ガイド』
 - 世界人権宣言、国際人権規約から40項目を抜粋、アンケート調査を100カ国以上に
 - 4段階に区分: 完全な保障(3)、おおよその尊重(2)、頻繁な侵害(1)、常時侵害(0)
 - 個人の直接的肉体的苦痛に関する7権利に加重評価、0-100%で人権指標提示

2) UNDPの人間開発指標

- HDIー寿命: 出生時の平均余命; 知識: 識字率2/3、就学期間1/3; 所得: 限界効用逓減

3) 経済構造に関する数値化の課題ーいかなる数値をとるのかを巡る政治性

- 例: 日米構造協議、BIS基準における自己資本比率

9-3 情報収集・利用の諸相

9-3-3 環境衛生分野

(1) 19世紀の細菌学の発展＋伝染病発生についての情報共有化
(通知システム)

(2) 20世紀後半(オゾン層破壊、気候変動に関する課題認識に貢献)

- 大気科学の発展－宇宙開発、超音速旅客機開発、軍事衛星配備の結果＋気象学、生態学
- 1988年: IPCC (Intergovernmental Panel on Climate Change)
 - 単なる専門家の集まりではなく政府間のもので各国間バランスを考慮
 - 1992年: 気候変動枠組み条約につながる
cf. ミレニアムアセスメントの試み
- さらに対策のためには発生源に関するインベントリーの必要

9-4 情報収集手法の類型

(1) 受動的情報収集

<ルール型>

- 通知
- 報告制度

<自発型>

- NGOによる自発的情報提供
- 貿易保険レジーム

(2) 能動的情報収集

<公式型>

- 調査統計
- 個別的課題に関する調査
- 専門家ネットワーク構築 cf. GOARN

<非公式型>

- 人的ネットワーク構築 cf. パーティー、WS

9-5 情報収集における課題

(1) 情報収集のコスト

- 受動的情報収集を埋め込む必要
- 分野による負担するコストの差異－目的の主観的重大性

(2) 情報の質－偏向の補正

- 能動的情報収集
- But補正できる保証はない

(3) 秘密性と公開性のディレンマ

- 例：人道関係組織と人権関係組織の情報共有

(4) 信頼性の確保

- 例：IPCC

9-6 情報利用の課題

(1) 希少資源としての注意

- (2) 認知的要素の重要性 cf. 探知手段無い中で地下核実験再開の「確信」

(3) 情報加工における課題

- 形式的加工－集計・整理
- 実質的加工－指標の作成 cf. 人権指標、HDI

(4) コミュニケーションの課題

- ターゲティング
- 歪曲の回避－対応としての、情報の重複化、対抗偏向、中間媒介者の排除、歪曲耐性メッセージの開発

(5) 不確実性への対応

- 予防原則
- 後悔しない政策